



2011年11月26日～12月4日、アメリカ・シカゴで行われた Radiology Society North America (RSNA) 2011 に内田政史先生、長田周治先生、久能由記子先生と共に、カバン持ちとして参加させていただきました。出発前からシカゴの冬は雪が積もって寒い、とにかく寒いと聞いていましたが、オヘア空港に到着すると思ったほど寒さは感じず、滞在期間中は雪が降ることもなく天候に恵まれていました。現地時間で夕方頃に到着し、その日の夜は4人でアジア料理店へ向かいましたが、内田先生は何度も参加されていることもありシカゴの街を熟知していらっしやいました。

翌朝はホテルよりシャトルバスで会場の“McCormick Place Convention Center”へ向かい、RSNAの開会式に参加しました。高名な先生方がスピーチをされていましたが、なかなか聞き取れず…恐らくジョークを言われて会場がドッとわいているときに笑いどころがわからないのが悲しかったです。その後、各ホールで様々なプレゼンテーションが行われました。基本的にはスライドショーでの画像提示が主体であったので、リスニングができなくてもある程度の理解はできました(できた「つもり」かもしれませんが…)。オーラルの発表以外にも、ポスター展示も数多くありました。とんでもなく広いホールに紙のポスターが貼られているほかに、パソコンが百数十台並べられて電子ポスターとして閲覧できるスペースが設置されており、当科の内田先生、長田先生、久能先生は3名とも電子ポス

ターでの発表でした。恐らく電子ポスターのほうが多かったように思います。昨年の連登源でも長田先生が書かれていましたが、休憩スペース“Resident Lounge”では、昼になると軽食が無料で配られており、昼食代が節約できました。日替わりでサンドイッチやピザがでましたが、ポテトチップなどのスナックもありアメリカンな感じです。一応 Resident Lounge という名前でしたが、「見た目が明らかに Resident じゃないだろう」という方もたくさんおりましたので、今後参加される先生方は是非ご活用ください。また、会場内は無線 LAN 環境にあり、持参した i Pod touch でインターネットが使用できたので日本のニュースをチェックしていました。滞在中は i Pod touch を辞書として使うこともできたので、非常に重宝しました。(宣伝ではありませんが)

空き時間にはシカゴ観光もさせていただきました。シカゴの観光地、と言うと正直ピンときませんでしたが、意外と観るべきところは多く、美術館や有名なビルが多くあり時間ももっと欲しかったです。出発前に、シカゴ在住経験のある技師の片山さんに“John Hancock Center”の夜景は凄い」と聞いていましたが、94階の展望台からのシカゴの街並みは想像を遥かに上回る絶景でした。夜景というと、暗闇の中に建物の明かりがポツポツ、というイメージだったんですが、暗闇より明かりの割合の方が多い！今まで見た夜景で一番衝撃でした。ある1日は多種多様なビルを巡り、美術館で芸術に触れ、ブランド店で(ウインドウ)ショッピングしました。その夜は“Apollo Theater”という恐らく300席程度の劇場で“Million Dollar Quartet”というロックンロールミュージカルを見ました。チケットは内田先生が手配してくださり全く予備知識もなく会場へ向かったのですが、ストーリーとしては、エルビス・プレスリーをはじめとする偉大な4人が集い、一夜限りのセッションを行う、というもの。やはりリスニングは困難でしたが、生演奏が主体だったので凄く楽しめました。帰国後にインターネットで調べたところ、ブロードウェイでもやっているようミュージカルのようで、今年9月には初の日本公演を東京で行うとのこと。内田先生、有難うございました。

学会の終盤頃には賞の発表があったのですが、長田先生の演題“Vascular Anomalies of the Extremities: Clinical Findings and Imaging with Emphasis on MRI”が“Education Award”という賞を受賞しました。滞在期間中ずっと時差ボケに悩まされ寝不足の続いていた長田先生ですが、眠気も吹き飛んだのではないのでしょうか。シカゴ最後の晚餐は、長田先生に“LAWRY’S”というステーキハウスへ連れて行ってもらいました。ボリュームミーなのに、あっさりとした味で柔らかくアメリカらしくない感じだったので、ペロリと食べられました。

最後となりましたが、早淵先生をはじめとする医局及び同門の先生方へ、RSNA という世界最大級の学会に参加させていただける機会をいただけたことに感謝を申し上げます。次回は数年後に自分で演題を出して参加したいと思います。有難うございました。

